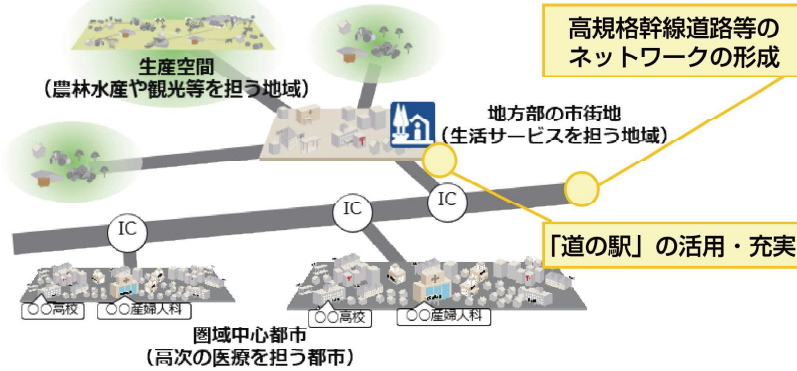


第8期北海道総合開発計画の推進

北海道型地域構造の保持・形成に向けた定住・交流環境の維持増進

第8期北海道総合開発計画（平成28年3月29日閣議決定）に基づき、「世界の北海道」のキャッチフレーズの下、北海道の強みである「食」と「観光」を担う地方部の「生産空間」を支えるための重層的な機能分担と交通ネットワークの強化、農林水産業の競争力・付加価値の向上、世界水準の観光地の形成等に重点的に取り組みます。

北海道型地域構造のイメージ：三層から成る「基礎圏域」



■生産空間

主として農業、漁業に係る生産を支え、観光資源を提供する空間

■地方部の市街地

一定程度の生活サービス機能を提供する地域

■圏域中心都市

医療、教育・文化、商業等の都市機能・生活機能を提供

北海道型地域構造の保持・形成を支える高規格幹線道路等のネットワークの構築

北海道内外の人流や物流の拡大、地域・拠点間の連携を確保するため、高規格幹線道路等のネットワークの構築を推進しており、令和元年度には深川・留萌自動車道が全道で初めて全線開通となりました。天然ホタテ漁獲量全国一のシェアを誇る北海道では、留萌管内産ホタテ稚貝を生産地である道東方面（別海・根室）まで供給しています。高規格幹線道路等の整備により輸送時間が短縮され、朝に陸揚げされた稚貝の当日輸送が可能となり、新鮮・良質な状態の稚貝を放流することで生存率が向上し、成貝ホタテ生産高の増加につながるなど、高規格幹線道路等のネットワーク整備は北海道内各地の生産空間を支え、産業振興の基盤となっています。

